

## 「愛される存在」

ほし組 西本 佳恵

今年のほし組さんは17人でスタートしました。ひとりひとりがおだやかではと組の頃からトラブルがほとんど起こらないクラスで有名です(笑) 4月は緊張してなかなか言葉も発せない子ども達でしたが、ようやく新しい環境にも慣れてきて活発に遊ぶ姿も多く見られるようになってきました。例年のほし組さんと比べると幼い面は多々見られるものの、「ぼくたち、私たちが年長さん!」といった自覚はしっかりと持っており、幼いなりに一生懸命年長児としてふるまう姿はなかなか立派です。「前のほし組さんはお歌上手やったな」「前のほし組さんはどんなことしてた?」などと発言することについては、錦江幼稚園ほし組の伝統が脈々と子ども達から子ども達へ自然と受け継がれているのだなあ〜と改めて感心させられます。それと今年は特にこのように毎年4月に新学期がスタートし、お互いに緊張しながらも日々楽しく過ごせていることへの感謝の気持ちが私の中では大変大きく感じられています。

さて今からほし組として1年を過ごしていくのですが、来年の4月にはこの17人の子どもたちも全員小学校に入学します。幼稚園卒園から小学校入学へのハードルの高さというのはこれから子ども達が人生を歩んでいく中でも相当高いものではないでしょうか。幼稚園とは全く違う環境の中、いきなり45分の授業が5時間目まで続き、その間の休み時間はたったの10分(業間は20分)なんですから。そこで就学前のこの1年間はどのように過ごすべきか・・・子ども達が小学校に行っても困らないように何を教えるべきか・・・親御さんと共に私自身も過去たくさん悩んできた課題でした。しかし今年小学1年生になった子ども達の姿を見てはっきりと感じたことがあります。それは子どもが人として正しく育っていく全ての源は自分が十分に愛されている存在であることを、感性の柔らかい幼児期の毎日の生活の中、全身で感じる事です。その満たされた心から他者への優しさ、思いやりの心が育ち、未知の世界への1歩を踏み出せる力にもなっていきます。錦江幼稚園の保育はこのことに尽きるのではないのでしょうか。日々の生活においてはなかなかそう言いきれないことがたくさんあることも事実ではありますが、立ち止まり子ども達の姿を見て教えられる日々感謝しながらこの1年も互いに愛し、愛されながら過ごしていけたらと願っています。